

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	岡山理科大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
理学部	応用数学科	夜・通信	0	25	0	25	13	-
	基礎理学科	夜・通信		25	30	55	13	-
	物理学科※1	夜・通信		25	0	25	13	-
	応用物理学科※1 物理科学専攻	夜・通信		25	0	25	13	-
	化学科	夜・通信		25	11	36	13	-
	生物化学科※3	夜・通信		25	28	53	13	-
	動物学科	夜・通信		25	45	70	13	-
	臨床生命科学科※5	夜・通信		25	41	66	13	-
工学部	機械システム工学科	夜・通信		27	16	43	13	-
	電気電子システム学科	夜・通信		27	8	35	13	-
	情報工学科	夜・通信		27	8	35	13	-
	応用化学科※2	夜・通信		27	2	29	13	-
	バイオ・応用化学科※2	夜・通信		27	10	37	13	-
	知能機械工学科※3	夜・通信		27	26	53	13	-
	建築学科	夜・通信		27	70	97	13	-
	生命医療工学科※5	夜・通信		27	39	66	13	-
情報理工学部	情報理工学科※4	夜・通信		25	86	111	13	-
総合情報学部	情報科学科※3	夜・通信		25	47	72	13	-
生命科学部	生物科学科※4	夜・通信		25	52	77	13	-
	医療技術学科※6	夜・通信		25	18	43	13	-
生物地球学部	生物地球学科	夜・通信		25	125	150	13	-
	恐竜学科※6	夜・通信		25	32	57	13	-
教育学部	初等教育学科	夜・通信		25	66	91	13	-
	中等教育学科	夜・通信		25	43	68	13	-
経営学部	経営学科	夜・通信		25	46	71	13	-

獣医学部	獣医学科	夜・通信		4	28	32	19	－
	獣医保健看護学科	夜・通信		4	34	38	13	－
アクティブラーナーズコース※4		夜・通信		12	15	27	13	－
通信教育部 情報理工学部	情報理工学科※6	夜・通信	0	0	15	15	13	－
(備考) ※1 応用物理学科は令和4年度から物理学科に名称変更 ※2 バイオ・応用化学科は令和4年度から応用化学科に名称変更 ※3 生物化学科は令和4年度から学生募集停止 知能機械工学科は令和4年度から学生募集停止 情報科学科は令和4年度から学生募集停止 ※4 情報理工学部、生命科学部、及びアクティブラーナーズコースは令和4年度開設 ※5 臨床生命科学科、生命医療工学科は令和7年度から学生募集停止 ※6 医療技術学科、恐竜学科、及び情報理工学科(通信)は令和7年度開設								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学の情報公開のホームページ <https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/>
 教育課程に関する情報＞「実務経験のある教員等による授業科目」に一覧表を掲載している。

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	岡山理科大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

学園ホームページにて公表している。 情報公開＞役員一覧 (https://www.kake.ac.jp/information/index.html)
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社相談役	2025/6/13～ 4年後の定 時評議員会 の終結時ま で	学園の広報活動を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
非常勤	株式会社代表取締役会長	2025/6/13～ 4年後の定 時評議員会 の終結時ま で	学園の地域連携を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
非常勤	株式会社代表取締役社長	2025/6/13～ 4年後の定 時評議員会 の終結時ま で	学園の産学連携を 主として法人運営 全般に対する指導・ 助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岡山理科大学
設置者名	学校法人 加計学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 学則第11条の3(成績評価基準等の明示等)により、成績評価基準を明示することを定め、授業計画書(シラバス)を作成し、公表している。授業計画書(シラバス)作成にあたっては、教育開発センターが「シラバス作成ガイドライン」を策定し、授業回ごとの計画、達成目標、成績評価(合格基準)、フィードバック、実務経験等について要領を示している。授業担当者に対しては、前年度秋にFD研修会を通じて、シラバスの充実に取り組んでいる。 授業計画書(シラバス)の作成・公表時期は、11月に授業担当者に作成予定を周知し、担当者は12月中旬からシラバス入力を開始、2月中旬に作成を完了する。作成された授業計画書(シラバス)は学科長等の第三者チェックを経て、3月にホームページ上に公開している。	
授業計画書の公表方法	大学の情報公開のホームページ https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/ 「教育課程に関する情報」>「シラバス」及び「シラバスガイドライン」を掲載している。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 学則第29条(授業科目の履修及び単位修得の認定)の第3項により「単位修得の認定は、試験その他によって行う」と定め、各学部の履修規程第5条(授業科目の履修)、第8条(単位の認定と学習の評価)を定め、公表している。 学生に対しては、修得単位の認定、履修、成績評価等の規則を、「学生便覧」「大学ホームページ」に掲載し、全学生に配付し周知している。授業科目ごとの成績評価方法、合格基準については、各授業科目の授業計画書(シラバス)に定めた成績評価の方法に基づき厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を行っている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学部ごとの履修規程第8条(単位の認定と学習の評価)を設け、GPA算出方法について定めている。同規程及び指標の説明は「学生便覧」に示し、同様の内容をホームページに「学修成果に係る評価」として定め、公表している。 1. GPAによる指標の具体的な内容について (1) 学修の評価は科目ごとに次の等位(評価基準)によって行う。 評点: 100点をもって満点とし、60点以上を合格とし、単位を認定する。 評価: S(秀)・A(優)・B(良)・C(可)・D(不可)をもって評価する。 評点ごとの、評価、判定、Grade Pointは次のとおりとなる。 評点: 100点～90点は評価S(秀)、Grade Point 4点、単位認定 評点: 89点～80点は評価A(優)、Grade Point 3点、単位認定 評点: 79点～70点は評価B(良)、Grade Point 2点、単位認定 評点: 69点～60点は評価C(可)、Grade Point 1点、単位認定 評点: 59点以下は評価D(不可)、Grade Point 0点、単位不認定 受講・受験せず: 評価E、Grade Point 0点、単位不認定 (2) 当該年度における成績の概況を判断する指標として、Grade Pointの数値の平均値GPAを用いる。 GPAによる成績の目安 4.00から3.00 優秀、2.99から2.00 良好、1.99から1.50 普通、 1.49から1.00 やや問題あり、0.99から0.00 相談を要す。 (3) GPAの算出方法は以下のとおりである。 $\frac{(Sの単位数 \times 4 + Aの単位数 \times 3 + Bの単位数 \times 2 + Cの単位数 \times 1)}{総履修登録単位数}$ ※小数点第3位以下切り捨て ※総履修登録単位数には、成績評価D、Eの単位数を含む。 (4) CAP制度は、年間49単位に設定している。ただし、前年度の取得単位数が30単位以上、かつ前年度のGPAが3.0以上の者については年間57単位まで履修を認めている。これらは履修規程に掲載・公表している。 (5) 通信教育部のCAP制度は、各学期に22単位に設定している。ただし、前年度の取得単位数が30単位以上、かつ前年度のGPAが3.0以上の者については学期24単位まで履修を認めている。これらは履修規程に掲載・公表している。 2. 客観的な指標の適切な実施状況 GPAを用いた成績分布図を学科ごと、学年ごとに作成し、ポータルシステムを通じて全学生に配付しており、成績一覧に表示されたGPA値により、学生個人が学科内での成績位置を把握できるようにしている。また、1年次から3年次までの成績不振者を対象に春学期と秋学期末にチューターによる修学相談を実施し、成績一覧表とGPA分布図を参考に、以後の履修指導に活用している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	全学部の「履修規程」に成績評価として指標を定め、「大学のホームページ」に示している。 大学の情報公開のホームページ https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/ 「学修評価及び卒業・修了認定基準に関する情報」を掲載している。

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 本学は、学則第2条の第4項（方針の策定及び明示）に基づき、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定め、本学を卒業し「学士の学位」を授与される者が、身につけるべき能力、技能等を学部学科ごとに定め、公表している。 全学の卒業認定・学位授与の方針は次のとおりである。 建学の理念にある社会に貢献できる人材を養成するため、各学部所定の期間在学し、所属学部で定めるカリキュラムに沿って幅広い教養と知識・技能を身につけ、基準となる単位数を修得した学生に学位を授与する。 A. 知識・理解 社会に貢献するために必要な専門分野の知識を身につけている。社会での諸活動や異文化理解のために必要な幅広い教養と基礎知識を身につけている。 B. 思考・判断・表現 課題や目的に応じて情報を収集し、整理することができる。問題を発見し様々な方法を用いて、その解決策を提案することができる。 C. 関心・意欲・態度 学び続けることや社会に貢献することに関心・意欲があり、主体性や協調性を身につけている。自立した社会人として求められる国際的な視野や倫理観を身につけている。 D. 技能 学術的な知見や自らが関心のある課題に対し、結果、考察などを論理的に記述することができる。他者に対して自分の考えや想いを分かりやすく伝えることができる。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	全学、学部、学科ごとに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を掲載し、デジタル冊子『教育の目標と方針』をホームページに公表している。 大学の情報公開のホームページ https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/ 「学修評価及び卒業・修了認定基準に関する情報」>「ディプロマポリシー」「アセスメントポリシー」を掲載している。 https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/requirements/ 「修業年限・卒業修了に必要な修得単位数」を掲載している。

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	岡山理科大学
設置者名	学校法人 加計学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
収支計算書又は損益計算書	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
財産目録	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)
事業報告書	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/project.html)
監事による監査報告(書)	学園ホームページにて公表している。 (https://www.kake.ac.jp/information/finance.html)

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 令和8年度事業計画 対象年度: 令和8年度)
公表方法: https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/assurance/
中長期計画(名称: 岡山理科大学ビジョン2026(改訂版) 対象年度: 2017-2026年度)
公表方法: https://www.ous.ac.jp/outline/vision/

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページ https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/assurance/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ●岡山理科大学ホームページ (公財)大学基準協会による2021年度(令和2年)大学評価(認証評価)結果 https://www.ous.ac.jp/common/files/117/202103290947230435724.pdf (公財)大学基準協会による2013年度(平成25年)大学評価(認証評価)結果 https://www.ous.ac.jp/common/files/117/2013kekka.pdf (公財)大学基準協会による2006年度(平成18年)大学評価(認証評価)結果 https://www.ous.ac.jp/common/files/117/2006kekka.pdf ●(公財)大学基準協会ホームページ https://www.juaa.or.jp/search/detail.php?id=535&page=1#result1

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	理学部、工学部、情報理工学部、総合情報学部、生命科学部、生物地球学部、教育学部、経営学部、獣医学部、アクティブラーナーズコース、通信教育部情報理工学部
教育研究上の目的（公表方法：「教育の目標と方針」（デジタルパンフレット）： https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/kyouiku/ 「教育研究上の目的（大学）」： https://www.ous.ac.jp/outline/purpose/ ）	
（概要）	本学は、学則第 1 条(目的)において、「本学は教育基本法及び学校教育法に基づき、学術の理論及び応用を深く研究教授するとともに、豊かな人間性と創造的知性を備えた人材を育成して、学術文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。」と定めている。これに基づき、学則第 2 条の 3(学部及び学科の教育研究上の目的)として、学部及び学科ごとに定め、公表している。 1. 理学部は、人間・社会・地球環境を念頭に置いた幅広い一般教養・社会常識を背景にして、真理に対する深い感動と畏敬をもって自然科学の基礎知識を習得し、社会で実践する能力を有する人材の養成を目的とする。 2. 工学部は、ものづくりに必要な知識と技能を修得し他の人と、協働してそれらを活用し得る能力、地球的視野から多面的に物事を理解し判断し得る能力、そして技術者としての倫理観を備え、科学技術を通して技術者として社会人として社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。 3. 情報理工学部は、情報技術を核として社会にある問題を発見・分析し、新たな知見を得ることや情報システム開発、センサやロボット技術などを用いたシステム開発を行うことにより、人間の持つ様々な機能を拡張し、人に優しい社会を目指すことのできる人材の養成を目的とする。 4. 総合情報学部は、情報技術とその基礎となる数理を学び、論理的で数理的な思考力を身につけ、高度情報社会を支え発展させ、社会に貢献できる人材の養成を目的とする。また、入学者の将来の可能性を個々の能力に応じて最大限引き出すことを目指している。 5. 生命科学部は、生命科学の基礎知識を体系的に理解し、それを応用したバイオテクノロジーの専門知識と技能を実践的に修得することで、自ら発想し行動する能力を身につけ、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の養成を目的とする。 6. 生物地球学部は、生物学・地球科学・天文学・地理学・考古学・古生物学に係わる幅広い学際的な分野を体系的に習得することにより、地球温暖化、大気汚染、自然災害、生物多様性の減少など、さまざまな要因により複雑化した現代社会の諸問題の解決に貢献できる判断力と実行力を持つ人材の養成を目的とする。 7. 教育学部は、教育に関する基礎理論および初等・中等教育の各教科内容と指導法の研究を通じて、教育の本質を深く理解し、児童・生徒への豊かな教育的愛情をもち、変動する社会の中で確かな使命感をもって教育に携わり、様々な教育課題に真摯に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。 8. 経営学部は、サービスを中心とした現代社会におけるイノベーションを「経済的付加価値の創造」として位置付け、マネジメント能力を基盤として、学生一人ひとりが自らの可能性に挑戦し、深い教養や専門知識、及び総合的な判断力を身につけた社会人基礎力を有し、企業や自治体等の組織を変革する能力、及び経営を担える人材を養成することを目的とする。 9. 獣医学部は、獣医学、獣医看護学に関する知識及び技能を基盤として、実践的かつ応用的な教育を通して、高い生命倫理観と豊かな人間性、国際的視野を備え、ライフサイエンス分野の発展、及び動物とヒトの健康と福祉に貢献する人材の養成を目的とする。

る。

10. アクティブラーナーズコースは、学生が自らの将来像を描き、既成の学問領域にとらわれず、自らの学びの設計・実践・省察を習慣化するとともに、他者と関わりながら、複数の学問領域の知見を融合させ、新しい価値を創造する能力を身につけることで、変化の激しい社会に柔軟に対応し、組織や社会に変革をもたらすことのできる人材を養成することを目的とする。
11. 通信教育部情報理工学部は、情報技術を核として社会にある問題を発見・分析し、新たな知見を得ることや情報システム開発を行うことにより、人間の持つ様々な機能を拡張し、人に優しい社会を目指すことのできる人材の養成を教育研究上の目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「教育の目標と方針」（デジタルパンフレット）：<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/kyouiku/>
ディプロマポリシー：<https://www.ous.ac.jp/outline/dpolicy/>）

（概要）

本学は学則第2条の4(方針の策定及び明示)において、教育研究上の目的を達成するため、3つの方針を策定し、明示することを定め、公表している。

これに基づき、「卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)」は、本学を卒業し「学士」の学位を授与される者に対して、本学が教育活動の成果として学生個々が備えるべき能力・技能等の項目を学部・学科ごとに定め、公表している。

1. 理学部

理学部では、各学科の卒業要件に定められた単位を修得し、以下に示す能力・技能を身につけた学生に学位を授与します。

A. 知識・理解

社会に貢献するための科学の基礎知識を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

科学に関する情報を収集し、整理することができる。科学に関する問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

科学に関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。科学を学んだ者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

科学に関連する課題に取り組み、結果や考察を論理的に記述することができる。研究者として社会人としての自分の考えや想いを分かりやすく伝えることができる。

2. 工学部

工学部では教育目標に定める人材を養成するために、次に挙げる能力を身につけ、所定の単位を修得した者に学士(工学)の学位を授与する。

A. 知識・理解

社会に貢献するための工学の基礎知識を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

工学に関する情報を収集し、整理することができる。工学に関する問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

工学に関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。工学を学んだ者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

工学に関する分野の技術者に必要とされる基礎的な技能を身につけている。工学に関連する課題に取り組み、結果や考察を論理的に記述することができる。技術者として社会人としての自分の考えや想いを分かりやすく伝えることができる。

3. 情報理工学部

A. 知識・理解

A. 1 社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

A. 2 これからの社会で必要とされる情報技術及び機械制御技術に基づいた「人間機能の拡張」に向けて、これらの分野に関する専門的な知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

B. 1 情報技術及び機械制御技術と社会との関わりについて情報を収集し、整理することができる。

B. 2 情報技術及び機械制御技術に関する知識や教養をもとに問題を発見し、その解決策を提案または設計することができる。

C. 関心・意欲・態度

C. 1 情報社会や様々な身近な機器に対し関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。

C. 2 社会にある様々な問題解決に関心を持ち、技術者としてのグローバルな視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

D. 1 自ら課題に取り組み、その課題に対して既存のソフトウェア又はハードウェアから適切なものを選び出し、解決できるシステムを構成できる。

D. 2 自分の意見を相手に伝えることができ、集団内で良好な人間関係の構築を目指すことができる。

4. 総合情報学部

情報科学科 デジタルメディアコース

A. 知識・理解

情報科学や数理に関する基礎的な知識と、デジタルメディアに関する知識や方法論を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

情報科学と社会とのかかわりについて情報を収集し、整理することができる。デジタルメディアに関する知識や教養をもとに問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

情報社会に対し関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。

社会にある様々な問題解決に関心を持ち、技術者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

デジタルメディアに関する技術や方法論を利用したコンテンツやソフトウェアを開発することができる。社会人としての自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

情報科学科 Web・モバイルコース

A. 知識・理解

情報科学や数理に関する基礎的な知識と、Web・モバイルについての情報科学に関する知識を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を

身につけている。

B. 思考・判断・表現

情報科学と社会とのかかわりについて情報を収集し、整理することができる。情報科学に関する知識や教養をもとに問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

情報社会に対し関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。社会にある様々な問題解決に関心を持ち、技術者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

情報科学に関する技術を用いたソフトウェアを開発することができる。社会人としての自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

情報科学科 ビッグデータコース

A. 知識・理解

情報科学や数理に関する基礎的な知識と、知識を発見または活用するために大量のデータを処理する知識や方法論を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

情報科学と社会とのかかわりについて情報を収集し、整理することができる。データサイエンスに関する知識や教養をもとに問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

情報社会に対し関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。社会にある様々な問題解決に関心を持ち、技術者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

データサイエンスに関する技術を利用することができる。社会人としての自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

情報科学科 情報数学コース

A. 知識・理解

情報科学や数理に関する基礎的な知識と、解析学、代数学を修得し、さらに幾何学や統計学などに関する知識を身につけている。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

情報科学と社会とのかかわりについて情報を収集し、整理することができる。数理科科学に関する知識や教養をもとに問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

情報社会に対し関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。社会にある様々な問題解決に関心を持ち、技術者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

論理的で数理的な思考をもとに、問題を解決することができる。社会人としての自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

5. 生命科学部

生命科学部では、各学科の卒業要件に定められた単位を 修得し、以下に示す能力・技能を身に付けた学生に学位を授与します。

A. 知識・理解

社会に貢献するための生命科学の基礎知識を身につけている。

社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

生命科学に関する情報を収集し、整理することができる。

生命科学に関する問題を見つけ、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

生命科学に関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。

生命科学を学んだ者としての国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

生命科学に関連する課題に取り組み、結果や考察を論理的に記述することができる。

技術者として社会人としての自分の考えや想いを分かりやすく伝えることができる。

6. 生物地球学部

生物地球学部では、次のとおり卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定める。卒業要件を充足し、次の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与する。

A. 知識・理解

生物地球学部では次のとおり卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）を定める。卒業要件を充足し、次の能力を身につけた者に対して、学士（理学）の学位を授与する。

B. 思考・判断・表現

フィールドワークで情報を収集し、整理し、その結果をわかりやすく説明することができる。自然や人間・社会に関する問題を見だし、その解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

自然や環境問題に関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性、国際的な視野や倫理観を身につけている。

D. 技能

フィールドワークを計画的、かつ安全に実施することができる。フィールドワークを通して、現代社会の様々な課題に取り組み、結果や考察を論理的に記述し、分かりやすく説明することができる。

7. 教育学部

A. 知識・理解

体験活動を中心とした学びを通じて、小学校全科または中等教育の国語科・英語科、あるいは日本語教育の教科内容と指導法を修得し、教育実践ができる。社会で活躍できる、幅広い教養を身につけている。

B. 思考・判断・表現

これからの教育のあり方について、グローバルな視野から考えることができる。人間・社会に関する諸問題に取り組み、その解決策を提案できる。

C. 関心・意欲・態度

教職の社会的役割と意義を理解し、教育に関わることへの確かな使命感を理解した行動ができる。社会人として、積極的に世の中に貢献することができる。

D. 技能

各教科の教材を分析・開発し、ICT 等を活用した効果的な授業展開ができる。社会人としての自分の考えや想いを分かりやすく伝えることができる。

8. 経営学部

A. 知識・理解

基礎的な企業経営に関する知識や情報を有し、経営学分野、ビジネスデータサイエンス分野、スポーツマネジメント分野のいずれかの分野に関する基本的な知識を体系的に習得している。社会での活躍や異文化理解のための幅広い教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

現代社会のイノベーションを理解し、個々の課題に対して、具体的な戦略を構築することができる。ビジネスに関する問題を発見して、解決策を提案することができる。

C. 関心・意欲・態度

国際的視野を広げ、異文化を理解し、社会的に貢献する意欲を持っている。ビジネスパーソンとしてビジネス上の倫理観を身に付けている。

D. 技能

統計解析やデータ分析、ICT 技術をビジネスで活用するための基礎的な技能を身につけている。

9. 獣医学部

A. 知識・理解

獣医学または獣医看護学に関する基礎的知識を身につけている。

広い視野から物事を多面的に捉えるための幅広い教養を身につけている。

B. 思考・判断・表現

ライフサイエンス分野、公共獣医事分野、あるいは医獣連携獣医分野／獣医療看護分野における課題の解決策を提案することができる。

ライフサイエンス分野、公共獣医事分野、あるいは医獣連携獣医分野／獣医療看護分野に関する情報を収集し、整理することができる。

C. 関心・意欲・態度

獣医療に携わる者としての生命倫理、科学倫理、動物福祉に基づいた行動規範を身につけている。

獣医学または獣医看護学の分野で活躍・貢献するための主体性や協働性を身につけている。

D. 技能

獣医療に携わる者として必要な基本的技能を身につけている。

獣医学または獣医看護学の分野に関する課題に取り組み、結果や考察を論理的に記述することができる。

獣医療に携わる者として自分の考えを他者に分かりやすく伝えるために必要なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。

専門知識を平易な言葉で伝えることができる。

10. アクティブラーナーズコース

A. 知識・理解

自らがデザインした学びの領域に関する基礎的な知識を身につけている。自律的に行動する自立した社会人として必要とされる教養と基礎知識を身につけている。

B. 思考・判断・表現

自らやチームの目標に対して設計・実践・省察を適切に行うことができる。

C. 関心・意欲・態度

自律的に行動する自立した社会人として社会に貢献する意欲をもっている。他者や社会に対して関心を持ち、社会倫理を理解している。

D. 技能

目標を達成するために他者と関わる技能を身につけている。自らやチームが設定した

課題に関して、その結果や考察などを論理的に表現して他者に伝えることができる

11. 通信教育部情報理工学部

本学科の養成する人材像に基づき、本学科では次のとおり卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定める。卒業要件を充足し、以下の能力を身につけた者に、学士（情報理工学）の学位を授与する。

A. 知識・理解

- ・社会での活躍に向けた教養と基礎知識を身につけている。
- ・これからの社会で必要とされる情報技術に基づいた「人間機能の拡張」の実現に向けて、これらの分野に関する基礎的な知識を身につけた上で、いずれかの科目区分に関連する知識を身につけている。

①コンピュータサイエンス：数学、情報科学、コンピュータネットワーク技術の知識

②AI・データサイエンス：機械学習、AI プログラミング、データ処理技術の知識

③デジタルゲーム・メディア；デジタルゲームやメディア制作の技能、メディア工学の知識

B. 思考・判断・表現

- ・情報技術と社会との関わりについて情報を収集し、整理し、他者に説明することができる。
- ・情報技術に関する知識や教養をもとに問題を発見及び分析し、その解決策を提案できる。

C. 関心・意欲・態度

- ・情報社会や様々な身近な機器に対し関心をもち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につけている。
- ・社会にある様々な問題解決に関心をもち、技術者としての視野を身につけている。

D. 技能

- ・自ら課題を設定し、計画的に解決することができる。
- ・社会人として自分の考えを分かりやすく伝えることができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：

「教育の目標と方針」（デジタルパンフレット）：

<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/kyouiku/>

カリキュラムポリシー：<https://www.ous.ac.jp/outline/cpolicy/>)

（概要）

「教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラムポリシー)」は、卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー)で定めた各項目を達成するために、体系性と整合性が保たれたカリキュラムの編成と実施の方針を定め、公表している。学生に対して、具体的に示すため、カリキュラムチェックリストとカリキュラムツリーも用いている。

1. 理学部

「理学部共通科目」の中に用意した人間・社会・地球環境に配慮した幅広い一般教養・社会常識・国際感覚を身につけるための科目を 2 年次までに学習できるように配置する。プレゼンテーション資料やプリントなどを補完資料として用いた講義中心の教育に加え、能動的な学習方法を一部取り入れた教育を行い、教育推進機構所属のセンターと協力して学生を総合的に評価することにより、教育課程編成・実施の方針を継続的に評価・検討する。

少人数クラスおよび到達度別クラス編成により、アクティブラーニングを積極的に取り入れた教育を行い、センターと協力して学生を総合的に評価することにより、教育課程編成・実施の方針を継続的に評価・検討する。専門基礎知識を身につけ、課題解決能力をもつ人材を養成し、さらに、この能力を実践的に高めるために、初年次から 4 年次までを通して、専門科目を体系的に学習できるように配備する。配備した学年に対応

して演習・実験・実習などを取り入れた能動的学習手法と講義による教育を行い、講義・演習・実験・実習中の取り組みやレポート並びに達成度確認テストなどの学科で定めた学修成果の指標に基づいて評価する。加えて課題発見能力を併せもつ人材の養成を行うために、4年次に個別指導による卒業研究または特別研究を課し、卒業研究論文やポスターまたは口頭発表などからループブック等を活用して総合的な最終評価を行う。これらの学生評価の指標から教育課程編成・実施の方針を継続的に評価・検討する。

国家資格をもつ人材の養成を行うために、国家資格取得を支援する科目を整備する。演習中心の教育と個の学習を重視した教育を行い、国家試験に対応した模擬試験などの学科で定めた学修成果の指標に基づいて評価する。また、数学・理科を中高生に教える優れた教員を養成するために、「理学部共通科目」として、理数系教員養成プロジェクト科目を置き、アクティブラーニングによる少人数教育を行い、担当教員の定めた学修成果の指標に基づいて評価する。これらの学生評価の指標から教育課程編成・実施の方針を継続的に評価・検討する。

社会参加の基礎力をもった人材を養成するために、情報基礎能力・文章作成能力・発表能力などを養う科目、企業研究に通じる科目を「理学部共通科目」の中に整備する。個の学習とグループ学習などを用いた能動的な手法を用いた教育を行い、センターと協力して学生を総合的に評価することにより、教育課程編成・実施の方針を継続的に評価・検討する。

2. 工学部

学位授与の方針に掲げる基準を達成させるため、工学部の各学科において、専門に関わる基礎的あるいは共通的な内容を習得できる科目と、専門性の高い内容を習得できる科目を体系的に配置する。さらに、工学部共通科目を配置し、技術者に必要な素養を身につけさせる。具体的には、学科や年次に応じて、センターとも協力して、次のように専門科目等を体系的に配置する。

- A. 1・2年次では、技術者として求められる汎用的な知識と技能を習得させるため、専門分野に関わる基礎科目と共通科目を配置する。
- B. 3年次では、技術者として求められる専門的な知識と技能を習得させるため、各分野に関わる専門科目を配置する。
- C. 4年次では、技術者として求められる問題解決力を習得させるため、卒業研究を配置する。
- D. 修得した知識と技能に加え、幅広い教養を合わせて他者と協働できるよう、工学部共通科目を配置し、論理的思考力と記述力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などを習得させる。

上記科目における知識量、理解度、能力については、客観的な指標、学習および発表に関わる成果物などを利用して総合的に評価を行い、教育課程を継続的に評価・検証する。

3. 情報理工学部

卒業認定・学位授与の方針：DPの達成のために、1. 基盤教育科目と2. 専門教育科目の両輪で教育課程を編成する。

1. 成長を実感し、社会人で活躍する能力を深めるために、基盤教育科目を置く。

2. 1 1年次に数学・情報基礎科目として、情報理工学の学修にとって基本的な知識である数学や情報科学を配置する。また、基本的な技能であるコンピュータプログラミングやロボット製作のためのハード・ソフトウェアを身につける科目（融合科目を含む。）を置く。思考・判断・表現力を育成するため、ロボット製作はPBL（Project Based Learning）型授業とする。

数学・情報基礎科目は数学の基礎や情報・工学基礎の科目群を配置する。

2. 2 2・3年次に情報科学と工学分野を融合させた実習・演習科目（融合科目）及

び専門分野の知識・技能を学ぶコース科目を配置する。特に情報理工学の技術が人間生活や社会活動において、どのように人間の能力と活動の可能性を拡張しているのかについて教育する。各コースの教育内容を体系的に教育するため、コースごとの系統的な実習・演習科目による学びの機会を確保する。

2. 3 3・4年次に総合科目を配置し、基礎・共通・融合科目、コース専門科目で学んだ知識・技能を総合するものとして、「プロジェクト科目 I」「プロジェクト科目 II」「卒業研究 I」「卒業研究 II」の各科目を置く。各科目の過程で、専門知識を統合した思考・判断・表現力を養成し、社会における情報理工学の果たす役割への理解、情報理工学の利点を生かした自身のキャリアパスに対する関心と意欲を涵養する。

4. 総合情報学部

教育目標を達成するためのカリキュラムは、基盤教育科目、基礎科目、共通情報科目、共通数学科目と各コース専門科目、そしてリメディアル講座と卒業研究から構成されている。これらの科目と卒業・学位授与の方針(ディプロマポリシー)に示した各項目の関係は、基盤教育科目についてはディプロマポリシーとの関与度、並びに、各専門科目との対応関係を「教育の目標と方針」の別表にそれぞれ示す。

1年次には、情報科学を学ぶための導入科目でもある基礎科目6科目(9単位)、共通情報科目19科目(38単位)、共通数学科目14科目(28単位)が主に配置され、8科目の必修科目を設けることで、上級年次での専門科目受講のための橋渡しとしている。1年次秋学期から、各コース専門科目は10科目(20単位)が配置されており、2年次までの科目は興味のある科目を自由に履修することができる。3年次以降はデジタルメディアコース、Web・モバイルコース、ビッグデータコース、情報数学コースの4コースから選択したコースの科目を中心に履修し、専門性を高める。

○専門科目を学修する上で必要な基礎的な科目として、共通情報科目と共通数学科目を1年次から配置している。特に各種の入試制度を通して入学する学生が4年間勉強していけるように、1年次の必修科目は入学時の全学で実施される学力多様化度調査に基づきクラス分けを行い、多クラス開講を行っている。どのクラスにおいても教育効果を一定以上に保てるように、シラバスと教科書は共通にしている。教育にあたっては講義に能動的学修の方法を適切に取り入れ知識・理解の定着を図る。これらの科目については、客観的な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価することにより、教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

○デジタルメディアコース科目として、デジタルメディアに関する知識や方法論を学ぶ科目を1年次秋学期から3年次にかけて体系的に配置している。教育にあたっては講義に能動的学修の方法を適切に取り入れ、知識・理解の定着を図る。これらの科目については客観的な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価することにより、教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

○Web・モバイルコース科目として、Web・モバイルについての情報科学に関する知識を学ぶ科目を1年次秋学期から3年次にかけて体系的に配置している。教育にあたっては講義に能動的学修の方法を適切に取り入れ知識・理解の定着を図る。これらの科目については客観的な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価することにより教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

○ビッグデータコース科目として、知識を発見または活用するために大量のデータを処理する知識や方法論を学ぶ科目を2年次から3年次にかけて体系的に配置している。教育にあたっては講義に能動的学修の方法を適切に取り入れ知識・理解の定着を図る。これらの科目については、客観的な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価することにより教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

○情報数学コース科目として、解析学、代数学、幾何学、確率・統計学等数学科目を2年次から3年次にかけて体系的に配置している。教育にあたっては講義に能動的学修の方法を適切に取り入れ、知識・理解の定着を図る。これらの科目については客観的

な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価することにより、教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

- 大学で共通に開講される基盤教育科目(ライフ・キャリアデザイン系科目、人間・社会科学系科目、外国語系科目、科学技術系科目、ブランド系科目)を配置し、社会人として必要な教養を身につけさせる。これらの科目については客観的な知識・理解の指標を総合的に評価することにより教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。
- 大学で共通に開講されるライフ・キャリアデザイン系科目に加え、学科の共通基礎科目に含まれる「情報関連法学」、「情報社会論」及び「情報と職業」と「卒業研究」を通して社会と主体的・協働的に関わり、社会人として必要とされる知識・技能及び倫理観を身につけさせる。これらの科目については客観的な知識・理解の指標を総合的に評価することにより、教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。
- 大学で共通に開講される外国語系科目の英語に引き続き、情報科学分野でのコミュニケーションに必要な英語を継続的に学修するために、専門英語を3年次に配置する。その他の初修外国語科目は大学共通で開講される。これらの科目については、客観的な知識・理解の指標を総合的に評価することに加え、外部の評価テストの状況なども参考に教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。
- 大学で共通に開講されるブランド系科目に加え、情報科学に関連する資格取得、教員免許取得に対応する科目を配置する。これらの科目については客観的な知識・理解の指標を総合的に評価することに加え、資格取得状況により教育課程編成方針を継続的に評価・検討する。

5. 生命科学部

生命科学の基礎分野と農学や環境、医学分野などの応用生物的な知識と技術を習得した人材、現代の社会構造が抱える超高齢社会、環境変動と食糧生産など生物科学分野が果たすことが求められる役割について、情報収集や積極的な意思や自主的な行動ができるような人材の育成を行うことを目標とし、全学共通の基盤教育科目(ライフ・キャリアデザイン系科目、人間・社会科学系科目、科学技術系科目、外国語系科目、ブランド系科目)と学部の専門教育科目(「基礎科目」「共通専門科目」及び5つの「コース専門科目」の科目区分)を設定している。また、主に教員養成を目的とした「専門関連科目」「教員養成プロジェクト関連科目」を設定している。

4年間を通じて基盤教育科目において社会での活躍に必要とされる教養と異文化理解のための幅広い知識を身につける科目を履修する(A. 知識・理解)。さらに大学における専門的な分野の学びへの導入と適応を図る科目である「基礎科目」と1年次秋学期から配置する「共通専門科目」で、生物科学科全般に必要とされる基礎的科目を修得する。さらに情報倫理や生命倫理についても理解する。基盤教育科目と生物科学の基礎を並行して履修することで専門的な生物科学分野に関わる社会的な問題点を見つけ、その解決策を提案する力を修得する(B. 思考・判断・表現)。これらを実行する技能を学ぶ意欲が涵養される。

2年次秋学期から3年次には生物科学科を特徴付ける専門性の高い「コース専門科目」を配置する。コース専門科目には「バイオサイエンスコース専門科目」「生物生産コース専門科目」「コスメ・食品コース専門科目」「環境科学コース専門科目」「医用生物学コース専門科目」を配置し、配属コース科目だけでなく広い専門性を持った人材養成のため、他コースの専門科目も含め横断的に修得する。様々な生物科学分野の専門科目を修得することにより、生物科学分野の諸問題に関心を持ち、社会に貢献するための主体性や協調性を身につける。さらに外国語系科目や専門英語などを通して国際的な視野を身につける(C. 関心・意欲・態度)。

4年次には各コースに配置された研究室において「卒業研究」を履修することにより、これまでの知識を研究の場に活かし、課題をもって研究室において毎日研究に取り組むことにより、得られた結果や生じた問題点に向き合い、論理的な考察を加えて説明する

力を養う。研究倫理についても理解する。また、卒業研究に含まれる発表会やセミナーなどを通して人に伝える力や表現する力を養う(D. 技能)。

6. 生物地球学部

カリキュラムは、基盤教育科目、学部共通科目、専門科目、上級科目、専門関連科目で構成される。このうち、学科ごとに開講される専門科目以外の科目の教育内容は、次の1～4のとおりである。本学部で開講される科目では、学修の成果を試験、課題、レポートなどによって総合的に評価する。

1. 教育推進機構の各センター及びキャリア支援センターと連携し、大学での学びへの適応をはかり、幅広く深い教養を身につけた社会人としての基盤を築くために、豊かな人間性の育成を目指して、ライフ・キャリアデザイン科目、人間・社会科学系科目、科学技術系科目、ブランド系科目から構成される基盤教育科目を配置する。また、基盤教育科目には外国語系科目をおき、外国語を継続的に学修する機会を与え、専門分野についてのより深い理解や、海外におけるフィールドワーク、学会等で必要となる基礎的なコミュニケーション能力の養成をはかる。
2. 生物地球学部の DP を実現させるために必要な基礎知識を修得し、学科ごとに開講される専門科目の導入となる科目を学部共通科目として配置する。学部共通科目には、対象とする学問領域における最新トピックスをオムニバス形式で紹介する科目を用意するほか、地学や生物学の基礎的な講義科目、および実習科目を配置し、人・生物・地球・宇宙とのかかわりを認識させ、生物地球学科および恐竜学科が対象とする学問分野への興味や学習意欲の向上を図る。また、身近な自然の姿を観察し、直接触れる経験を積むことができるよう、基礎的なフィールドワークを行なう実習科目を用意し、主体的学修の方法を取り入れた教育を行う。
3. 博物館学芸員資格取得に必要な科目のうち、本学部の DP の実現に資する科目を、上級科目に配置し、展示やプレゼンテーション方法、資料の保存や整理方法などの発展的・実践的な内容を体験させる。また、野外博物館実習では、学外の一般市民を対象に展示発表を行うことにより、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を高める教育を行う。さらに、生物地球科学分野における最新の研究手法や研究成果を紹介する特別講義を開講する。4年次には、各研究室において卒業論文をまとめるために必要な演習講義を配置して、それぞれの分野の研究遂行に必要な情報収集能力と分析能力を高める。さらに、卒業研究では、学部での学びを集大成させ、主体性な学修力、学術的コミュニケーション能力を総合的に向上させる。
4. 教員免許取得に必要な物理や化学に関する基礎的な科目を、専門関連科目として配置し、教育推進機構基盤教育センターと協働して、フィールドワークを含む総合的な理科教育ができる教員の育成を目指す。

7. 教育学部

現代の教育課題に真摯に取り組み、社会に貢献できる教育実践者を育成するため、教育学部の教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目によって構成する。専門科目は学部教育の核であり、教科(言語・文化)に関する科目、教職(教育)に関する科目、教育実践に関する科目、グローバル教育課題に関する科目、体験・探究活動に関する科目、卒業研究などで構成する。基盤教育科目は、全学共通の方針に則し、社会人として必要な、幅広い基盤的教養を身につけ、専門教育科目と併せて教育実践者としての資質向上に寄与するものと位置付ける。

- 1) 1年次には、初年次教育ならびに教職の基礎科目、基盤教育科目を重点的に配置し、専門教育と基盤教育をバランスよく学ぶことで、大学生として、また教職を志す者としての知識や自覚を向上させることができるよう配慮している。
- 2) 2年次には、教職の基礎に加え、実践的科目を多数配置し、学習者から教育者への視点の転換を促す科目構成となるように配置している。

- 3) 3 年次は、初等教育学科の教育実習が行われる。これは、それまでの学修の到達点を確認する大きな機会となる。中等教育学科においては、4 年次春学期の教育実習に向けて、教科の専門性を高めつつ実習に向けた準備を進める重要な時期となる。両学科とも、それまでの学修と、教育者としての学生自身の姿を顧みることによってさらなる学びの深化の機会を提供する演習科目を配置している。
- 4) 4 年次は、学修の総仕上げとしての教職実践演習および卒業研究が中心となる。ここにおいて、反省的思考や倫理観を強化し、さらに課題解決能力、プレゼンテーション能力を深化させる。
- 5) 全体として、初年次以降の各学年において、専門教育科目の中に実習・演習科目を意識的に配置し、アクティブ・ラーニングを促すカリキュラムとしている。
- 上記科目における知識量、理解度、身につけた技能については、客観的な指標や学習成果物、発表成果などを用いて総合的に評価し、教育課程を継続的に評価・検証する。

8. 経営学部

経営学部教育課程は、基盤教育科目と専門教育科目から構成される。基盤教育科目は、全学共通の方針に基づき、社会人として必要な幅広い基盤的教養を身につけ、専門教育科目と併せて、学生の資質向上に寄与するものとして配置する。

専門教育科目は、学位授与の方針に掲げる基準を達成するため、5 つの科目系列「基礎科目」、「経営学コース」、「ビジネスデータサイエンスコース」、「スポーツマネジメントコース」、「演習」を設置する。

1 年次では、演習科目系列の「基礎教養ゼミナール」を必修とする。同時に基礎教育科目系列(経営学、ビジネスデータサイエンス、スポーツマネジメントの各分野)から各人の興味に従って授業科目を選択し、基礎的概念を学び、幅広い経営学科の講義の体系と概要を理解させる。これらの授業では、内容理解を深めるための課題を適切に組み合わせ、自発的学習を促すべく工夫を行う。

1 年次後半から 2 年次、3 年次にかけて、「経営学コース」、「ビジネスデータサイエンスコース」、「スポーツマネジメントコース」から一つのコースを選択し、各コースの科目系列をおもに学習する。

・経営学コース

マーケティング戦略、消費者行動、マーケティング・コミュニケーション、国際経営などマーケティング領域

域の専門科目を中心に科目が配置されている。企業等の組織体がいかに運営されているか理解し、効率的・効果的運営のための理論を学ぶとともに、マネジメント能力を養うことを目的として、1 年次後半から 3 年次を通じて体系的に配置している。講義と内容理解を深めるための課題を適切に組み合わせ、最新のニュースを講義で取り入れ現代社会との接点を示すなどして知識・理解の定着を図る。

・ビジネスデータサイエンスコース

ビジネスデータ分析のための統計学の知識とそれを実現するための情報処理のスキルを身につけさせる。また、データから知識を取り出すデータ分析能力、および情報ツールを活用した問題解決能力を養うことを目的に設置し、体系的に配置する。具体的には、おもに 2 年次から、データを数的処理するための数学と統計学の知識、プログラミング等のコンピューティングスキル、および実社会に応用する力を養うためのデータ解析科目などを設置する。コンピュータを積極的に活用し、実用的かつ実践的技能を身につけることができるよう配慮する。

・スポーツマネジメントコース

ビジネスとスポーツ、データサイエンスとスポーツをコンセプトに 3 つの研究領域を設定し、それに基づいて科目を設置する。1 つ目はスポーツビジネス領域で、実践的なスポーツサービスの仕組みづくりや具体的なスポーツ組織のマネジメントについての知識や技能を習得する科目を配置する。2 つ目はスポーツアナリティクス領域で、スポー

ツ種類別の分析事例をもとに、講義独自の分析目的を設定し、そのためのデータ収集や集計・分析を行う力を養う科目を設置する。3つ目はスポーツサイエンス領域とし、分析目的を達成するための重要な視点や指標についてサイエンスに基づいて探究することができる科目を配置する。どの領域においても、スポーツビジネスを展開する企業や関連団体、プロチームなどの機関と提携し、スポーツビジネスの現場を体感する実習科目を設けるなど、実用的かつ実践的技能を身につけることができるよう配慮する。

3年次には、演習科目系列の「イノベーション・ラボⅠ、Ⅱ」を配置し、企業や地域社会が抱える問題を解決する経験を通じて、講義で学んだ知識の実践活用能力を養成する。課題設定と課題解決のための情報収集と分析・考察、提案までのプロセスを、グループ学習を通して学び、自ら推進する能力を身につけることができるよう配慮する。また、グループ学習における議論および客観的な知識・理解の指標に加えて学修の成果物等を総合的に評価・検討する。

4年次では、演習科目系列の「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を配置し、卒業研究発表・卒業論文を準備することによって、各自が専門分野の知識と技能を深め、自らの問題意識で物事を解明する能力を向上させ、社会人としての実践的能力を身につけさせる。卒業研究発表・卒業論文はルーブリックなどを用いて総合的に評価する。

9. 獣医学部

卒業認定・学位授与の方針に掲げた基準を達成させるため、基盤教育科目、基礎科目、専門科目、アドバンスト科目、総合科目を配置する。

いずれの科目も学修の成果物（試験、課題、レポート等）によって総合的に評価する。なお、カリキュラム全体の改善については、ディプロマポリシーの到達度を毎年継続的にチェックすることにより行う。

社会人としての基盤を築き、総合的な判断力を身につけることのできる基盤教育科目を1年次から配置する。また、国際的な視野を涵養し、基礎的なコミュニケーションに必要な英語を中心とした外国語を継続的に学修するため基盤教育科目外国語系科目を1年次から配置する。教育にあたっては、学生の能力に配慮した効果的な指導を行う。

大学における学びへの適応を図り、各学科における専門分野への興味を持たせ、それに関わる基礎的知識と技能を習得させるために、ライフサイエンス分野、公共獣医事分野、医獣連携獣医分野／獣医療看護分野の特性を理解させるために基礎科目を1年次から配置する。教育にあたっては講義、演習、及び実習を適切に組み合わせ、自発的学習を促す。

各学科における専門分野に必要な知識と技術技能を修得する専門科目を体系的に1年次から4年次に配置する。教育にあたっては講義、演習と実習の連携を密にし、実用的な知識と技術を身に付けることができるよう配慮する。

新たな課題に対応する能力を養うため、アドバンスト科目に3つの分野の科目系列を獣医学科においては5年次から6年次に、獣医保健看護学科においては3年次から4年次に配置する。教育にあたっては、講義、演習、及び実習を適切に取り入れ、知識と理解の定着を図るとともに、アクティブ・ラーニング等の方法を適切に取り入れ、課題解決能力を身に付けさせる。

学生自らが課題を探究し、解決する姿勢や、その過程と結果を論理的に説明する能力を涵養するため、総合科目を獣医学科においては5年次から6年次に、獣医保健看護学科においては3年次から4年次に配置する。

10. アクティブラーナーズコース

本コースにおいては、学生がディプロマポリシーの基準に到達するため、独自の専門教育科目として「アクティブラーナーズ修得科目(以下 ALs 科目という)」を設置して、自分自身で学びの目的を設定しカリキュラムを構築する設計・実践・省察の学習サイクル

ルの習慣化を修得する。ALs 科目の授業はすべて、様々なアクティブ・ラーニング手法を用いて実施される。その他の履修科目は、岡山キャンパスで開講されている学部学科の専門教育科目とブランドプログラム科目、および基盤教育科目(ライフ・キャリアデザイン系、人間・社会学系、科学技術系、外国語系科目)から自由に選択する。

1)1 年次には ALs 科目「ラーニングデザイン」を配置し、チームチュータとともに自分自身の興味や得意分野を中心に自らの方向性や目標について考え、自身のカリキュラムを設計する。また、基盤教育科目と専門教育科目としてのブランドプログラム科目を履修することで、自律的に行動する自立した社会人として必要とされる教養と基礎知識を身につける。

2)2・3 年次には、ALs 科目「リフレクション手法 1」「リフレクション手法 2」を配置し、これまでの学びの実践を省察、分析し、到達度の自己評価を行い、これからの方向性について考える手法を学ぶ。

ALs 科目「課題問題発見演習」「チームトライアル」「チームプロジェクト A」「チームプロジェクト B」を配置し、グループごとに課題発見から課題解決までを設計、実践、省察してチームで働く力を養成する。

ALs 科目「ファシリテーション入門」「ファシリテーション実践」「アドバイジング実践」を配置して、目標を達成するために他者と関わる技能と、チームの課題と実践の結果や考察などを論理的に表現して他者に伝える力を養う。これらの科目では、他の ALs 科目や基盤教育科目に学生ファシリテータとして参加し、自己認知・他者理解を培う。また、後輩へのアカデミックアドバイジングの取り組みにも参加する。

3)4 年次には、学部学科の卒業演習に相当する「アクティブラーナーズ実践 1」「アクティブラーナーズ実践 2」を配置し、3 年次までの学びを省察・総合して、新たな設計・実践・省察のサイクルを通して、卒業後も「アクティブラーナー」として自律的に行動する自立した社会人であるべく、4 年間の学びを総括する論文を執筆、または発表する。

11. 通信教育部情報理工学部

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)の達成のために、教育課程を基盤教育科目、専門教育科目の 2 本の柱を軸として教育課程を編成し、実施する。

基盤教育科目：

社会で活躍する能力を深めるために「ライフ・キャリアデザイン系」「人間・社会科学系」「科学技術系」「外国語系」の系列科目群を設置する。

専門教育科目：

(1) 基礎・共通科目

・1 年次に基礎・共通科目として、情報理工学の基礎的な知識・技能を習得するための「数学基礎科目」「情報基礎科目」を配置する。

(2) 3 つの科目区分で学ぶ専門教育

・1～4 年次に情報理工学の専門的な知識・技能を習得するための科目を、3 つの科目区分に分けて配置する。

(2-1) コンピュータサイエンス科目

情報理工学の中心技術である情報科学とコンピュータネットワーク技術の基礎を学ぶ「コンピュータサイエンス科目」を配置する。これらは「数理ユニット」「情報セキュリティユニット」「コンピュータシステムユニット」で構成する。

(i) 数理ユニット

情報科学の理論的基盤となる現代数学(解析学、幾何学、代数学、確率論)の概念的基本的な枠組みと情報科学への応用を学ぶための科目を配置する。これらは講義形式で実施する。

(ii) 情報セキュリティユニット

現代のインターネット技術を基礎として情報通信におけるセキュリティの基本的な考え方と技術を学ぶための科目を配置する。これらは講義または演習形式で

実施する。 (iii) コンピュータシステムユニット 現代のインターネット技術を支えている情報処理システム、及び関連したソフトウェアの知識、技術を学ぶための科目を配置する。これらは講義または演習形式で実施する。 (2-2) AI・データサイエンス科目 データを大量に集積し人間の認知力・判断力を高め拡張するため、機械学習、AIプログラミング技術及びデータ処理技術を学ぶ「AI・データサイエンス科目」を配置する。これらは「AI ユニット」「データサイエンスユニット」で構成する。 (i) AI ユニット 機械学習、自然言語処理など現在の AI 関連技術の知識、プログラミング技術、実践的なデータ処理への応用を学ぶための科目を配置する。これらは講義または演習形式で実施する。 (ii) データサイエンスユニット 大規模なデータ処理の基本となるアルゴリズム、データベースシステム、コンピュータシステムの知識、プログラミング技術について学ぶ科目を配置する。これらは講義または演習形式で実施する。 (2-3) デジタルゲーム・メディア科目 ゲーム制作のプロセスを通じて現実から本質をなす要素の抽出とシミュレーションによる再構成、及び人間の感覚の基礎を学び、XR（仮想現実、拡張現実、複合現実）を通じた人間の経験の範囲の拡張について学ぶ「デジタルゲーム・メディア科目」を配置する。これらは「デジタルゲームユニット」「メディアユニット」で構成する。 (i) デジタルゲームユニット ゲーム制作を主な題材とし、ゲーミフィケーションの考え方を軸にして、身体の延長としての機械と人間の親和性や表現手段としての XR について学ぶための科目を配置する。これらは講義または演習形式で実施する。 (ii) メディアユニット 映像・音響表現と人間の感覚の関係を学び、人間の体験や経験の拡張を支援する機器の応用について学ぶための科目を配置する。これらは講義または演習形式で実施する。 (3) 共通科目 4 年次に 4 年間で学んだ知識・技能を総合し卒業研究に相当する演習科目として「情報理工学セミナー 1」「情報理工学セミナー 2」を配置する。演習を通して思考・判断・表現力を養成するとともに、社会における情報理工学の果たす役割への理解、情報理工学の利点を生かした自身のキャリアパスに対する関心と意欲を涵養する。	入学者の受入れに関する方針（公表方法： アドミッションポリシー：https://www.ous.ac.jp/outline/adpolicy/） （概要）「入学者の受け入れに関する方針（アドミッションポリシー）」は、卒業の認定に関する方針（ディプロマポリシー）に沿った学生募集の方針と入学者選抜の方法を定め公開している。入学者に対して、各学部・学科が求める人物像、入学時まで学んで欲しいこと、備えて欲しい能力などを定め、公表している。 1. 理学部 理学部では、本学の教育理念「学際領域に着目し、理論研究と応用技術の密接な関連により、創造力の開発と養成を目指す教育を行う」を踏まえ、幅広い教養と社会常識、異文化を理解する国際感覚と倫理観、広い視野と創造性をもつ人材の養成を目指している。そのため、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。 A. 理学部の教育を受けるために必要な基本知識や技能を身につけている。
--	---

B. 理学部において教育を受け学修するために必要なコミュニケーション技能を身につけている。

C. 身につけている知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明や行動ができる。

D. 数理学・自然科学に関心をもち、自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学修活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。

E. 本学部での学修を通じて自身のもてる能力を伸ばし、社会に貢献する意欲を有する。

2. 工学部

工学部では、科学技術を通して社会に貢献し、自然と調和する物心共に豊かな暮らしの実現に寄与する技術者を養成することを目的としている。そのために、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

A. 工学部において教育を受けるにあたり必要な基礎的知識・技能を身につけている。

B. 工学部において教育を受けるにあたり必要な基礎的コミュニケーション技能を身につけている。

C. 身につけた科学技術に関わる知識・技能に基づいて、問題解決のために論理的に考えて判断し、説明や行動ができる。

D. 広く工学に関心をもち、工学を通じた「夢づくり、ものづくり、自分づくり」を実現するために、主体的かつ協働的な姿勢で、知識や経験を広げていく向上心を有する。

E. 工学部における学修を通じて、工学就業力を身につけるとともに自らの能力を高め、社会に貢献する意欲を有する。

3. 情報理工学部

情報理工学部では、情報技術を核として社会にある問題を発見・分析し、新たな知見を得ることや情報システム開発、センサやロボット技術などを用いたシステム開発を行うことにより、人間のもつ様々な機能を拡張し、人に優しい社会を目指すことのできる人材の養成を目指している。

そのために、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

A. 大学での教育を受けるために必要な基礎知識や技能を身につけている。

B. 身につけている知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明ができる。

C. 情報技術に関心をもち自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学習活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。

D. 情報理工学部での学修を通じて自信の持てる能力を伸ばし社会に貢献する意欲を有する。

4. 生命科学部

生命科学部では、生命科学の基礎知識を体系的に理解し、それを応用したバイオテクノロジーあるいは臨床医療技術の専門知識と技能を実践的に修得することで、自ら発想し行動する能力を身につけ、持続可能な社会や医療の実現に貢献できる人材の養成を目的としている。そのために、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

A. 生命科学部の教育を受けるために必要な基本知識や技能を身につけている。

B. 生命科学部において教育を受け学修するために必要なコミュニケーション技能を身につけている。

C. 身につけている知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明や行動ができる。

D. 生命科学に関心をもち、自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学修活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。

E. 生命科学部での学修を通じて自身のもてる能力を伸ばし、社会に貢献する意欲を有する。

5. 生物地球学部

生物地球学部では、自然の真理を探究し、地球温暖化など現代社会の様々な問題に対応する人材を育成するため、植物学、動物学、昆虫学、地理学、考古学、地球科学、気象学、天文学、恐竜学、古生物学などの分野を対象に、フィールドワークを主要な手段として用いた

専門的、かつ学際的な教育・研究を行う。本学部での学びにおいては、フィールドワークを重視した教育・研究を行い、野外調査と収集資料の観察や解析を通じて、学際的かつ統合された知識や技能を身につけさせ、科学的な問題解決能力を修得させる。このような観点から、生物地球学部で学ぶ強い意志を持っており、かつ以下のような人を国内外から幅広く求める。

- A. 生物地球学部において学修するために必要な基本的な知識や技能を身につけている。
- B. フィールドワークで必要となるコミュニケーション技能を身につけている。
- C. 知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明や行動ができる。
- D. 自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学修活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。
- E. 学修を通じて自身の持つ能力を伸ばし、社会に貢献する意欲を有する。

6. 教育学部

教育学部では、「探究する力」と「言葉の力」を学びの柱として、幅広い教養と高いコミュニケーション能力を備えた人材、そしてその能力をいかして子どもの人間的成長に責任をもち、同僚、保護者、地域と積極的に連携しながら次世代の担い手を育むことで社会に貢献していこうとする、強い使命感をもった教員の養成を目指している。このような観点から、教育学部では以下のような資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

- A. 教育学部の教育を受けるために必要な基本知識や技能を身につけている。
- B. 教育学部において教育を受け学修するために必要なコミュニケーション技能を身につけている。
- C. 身につけている知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明や行動ができる。
- D. 教育学部が対象とする学問分野に関心をもち、自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学修活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。
- E. 本学部での学修を通じて自身のもてる能力を伸ばし、社会に貢献する意欲を有する。

7. 経営学部

経営学部では、経営学部の養成する人材像及び教育研究上の目的に基づき、マネジメント能力を基盤として、学生一人ひとりが自らの可能性に挑戦し、深い教養や専門知識及び総合的な判断力を身につけた社会人基礎力を有し、企業や自治体などの組織を変革する能力及び経営力を担える国際的な視野をもった人材の養成を目指している。そのため、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

- A. 広く高等学校卒業レベルの基礎学力を有しており、学部の掲げる人材養成目的・教育目標を理解し、岡山理科大学経営学部での勉学を強く志望する人
- B. 経営学及び現代社会の制度・文化に強い関心をもち、高い意欲と目的意識をもって学習を行おうとする人
- C. 企業や自治体等の組織体が抱える課題の解決に挑戦して、社会に貢献しようという意欲をもつ人
- D. 自分なりの目標をもち、そのために一歩ずつ前進しようとする人

8. 獣医学部

獣医学部では、獣医学、獣医看護学に関する知識及び技能を基盤として実践的かつ応用的な教育を通して、高い生命倫理観と豊かな人間性、国際的視野を備え、ライフサイエンス分野（生命科学分野）の発展、及び動物とヒトの健康と福祉に貢献する人材の養成を目的とする。

求める人物像

- A. 生命、獣医療、動物とその環境に好奇心、探究心をもち、これらの知識、技能をいかし協働して社会に貢献したいと考える人
- B. 広く動物とヒトの健康と福祉に貢献したいと考える人
- C. 物事を多面的に考察、理解し、要点をまとめることができる人
- D. 新たな課題について、積極的に取り組む意欲のある人

9. アクティブラーナーズコース

アクティブラーナーズコースでは、コースの教育システムに共感し、学修や経験を通して、成長を望み、これからの時代に自らの学びと経験を以て、貢献しようとする人材の養成を目的としている。そのために、以下の資質をもつ人を国や地域を問わず広く求める。

- A. 知識・技能 自らの興味を深め、志望する分野を学修するために必要な基礎的な知識・技能を身につけている。
- B. コミュニケーション技能 他者と協働して学修を遂行するために必要なコミュニケーションに関わる基礎的な技術を身につけている。
- C. 思考力・判断力・表現力 自ら考えた目標や計画を行動に移すための説明をわかりやすく行うことができる。
- D. 学修への意欲・関心 主体的・協働的な学習活動を通して知識を深め、経験を広げていく向上心を有する。
- E. 社会貢献への意欲 自らの興味や志望する分野・領域とそれを取り巻く社会・環境・技術などに関心を持っている。

10. 通信教育部情報理工学部

通信教育部情報理工学部では、情報技術を核として社会にある問題を発見・分析し、新たな知見を得ることや情報システム開発を行うことにより、人間のもつ様々な機能を拡張し人に優しい社会の実現を目指すことのできる人材の養成を目指している。そのために、以下の資質をもつ人を国内外から幅広く求める。

- A. 通信教育部情報理工学部での教育を受けるために必要な基本知識や技能を身につけている。
- B. 身につけている知識や技能に基づいて論理的に考え判断し、説明ができる。
- C. 情報技術に関心をもち、自身が志向する目的を達成するため、主体的で協働的な学習活動を通じて知識や経験を重ねていく向上心や情熱を有する。
- D. 通信教育部情報理工学部での学修を通じて自身のもてる能力を伸ばし、社会に貢献する意欲を有する。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：本学ホームページの情報公開に掲載している。
<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	6 人	－					6 人
理学部	－	43 人	19 人	9 人	1 人	0 人	72 人
工学部	－	40 人	21 人	6 人	3 人	0 人	70 人
情報理工学部	－	14 人	11 人	6 人	0 人	0 人	31 人
総合情報学部	－	2 人	0 人	0 人	0 人	0 人	2 人
生命科学部	－	19 人	12 人	5 人	4 人	0 人	40 人
生物地球学部	－	16 人	7 人	2 人	2 人	0 人	27 人
教育学部	－	10 人	10 人	4 人	0 人	0 人	24 人
経営学部	－	5 人	7 人	8 人	1 人	0 人	21 人
獣医学部	－	26 人	22 人	27 人	12 人	2 人	89 人
通信教育部 情報理工学部	－	2 人	0 人	0 人	1 人	0 人	3 人
大学総数	6 人	177 人	109 人	67 人	24 人	2 人	385 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		357 人					357 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：ホームページ＞情報公開＞教員保有学位、 業績（教員検索システム） https://mylog.pub.ous.ac.jp/gyoseki/japanese/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
令和7年度の実施状況は下記の通りである。令和8年度もF D・S D講演会を実施する計画である。							
FD 関係							
実施日	研修名						参加人数
2025/04/16（水）	獣医学部ハラスメントF D研修会						37
2025/05/14（水）	I C T研修会						41
2025/05/19（月）	全学F D研修会（学生の性の多様性に関する対応ガイドライン）						434
2025/05/26（月）	2 0 2 5年度入試F D研修会						235
2025/05/28（水）	第1回教育ディベロッパー研修会						37
2025/06/04（水）	全学F D研修会（2 0 2 4年度カリキュラムアセスメント・チェック）						20
2025/06/25（水）	全学F D研修会（学修成果の可視化）						106
2025/07/16（水）	全学F D研修会（情報セキュリティ基礎講習）						386
2025/07/18（金）	獣医学部F D研修会（令和7年度S P O D講師派遣プログラム）						17
2025/07/28（月）	令和7年度研究インテグリティに関するF D研修会						237
2025/07/30（水）	第2回教育ディベロッパー研修会						41
2025/09/13（土）	英語教員F D会						5
2025/09/24（水）	第3回教育ディベロッパー研修会						32
2025/09/27（土）	全学F D研修会（教職シンポジウム2 0 2 5）						15
2025/11/12（水）	教職学協働F D研修会						36
2025/11/18（火）	全学F D研修会（情報セキュリティ基礎講習）						354
2025/11/26（水）	第4回教育ディベロッパー研修会						34
2025/12/03（水）	全学F D研修会（2 0 2 6年度シラバス作成関連）						142
2026/01/07（水）	企画広報F D研修会						192
2026/01/21（水）	全学F D研修会（大学業務における生成A Iの利活用）						419
2026/02/25（水）	全学F D研修会（大学院科目ナンバリング／T A S Aガイドと事前・事後研修）						98
2026/02/26（木）	F D講演会（U R A島田氏講演会）						30
2026/03/06（金）	I B全学F D研修会						80

2026/03/13 (金)	全学F D研修会 (C A C)	19	
2026/03/16 (月)	全学F D研修会 (F D活動報告会)	73	
SD 関係			
No	実施日	研修名	参加人数
1	2025/4/1 (火)	新採用者研修	38
2	2025/5/19 (月)	学生の性の多様性に関する対応ガイドライン	444
3	2025/5/26 (月)	入試広報セミナー	156
4	2025/5/30 (金)	情報セキュリティ研修会	1,039
5	2025/6/10 (火)	「心の健康づくり」計画に基づく研修	99
6	2025/7/16 (水)	情報セキュリティ講習	386
7	2025/7/28 (月)	研究インテグリティに関する研修	257
8	2025/7/30 (水)	ハラスメント研修会	1,002
9	2025/8/22 (金)	文章読解・作成能力について	54
10	2025/8/26 (火)	ティーチングポートフォリオの作成・掲載	50
11	2025/9/4 (木)	メンタルヘルスマネジメント研修	128
12	2025/9/5 (金)	補助金制度について	13
13	2025/9/24 (金)	学生支援のためのFD・SD研修	327
14	2025/10/29 (水)	こころの健康講座	291
15	2025/11/12 (水)	教・職・学体制での協働プロジェクト企画について	53
16	2025/11/13 (木)	補助金研修	43
17	2025/11/18 (火)	情報セキュリティ講習	354
18	2026/1/7 (水)	企画広報センターSD・FD研修会	192

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
理学部	360 人	269 人	74.7%	1,555 人	1,063 人	68.3%	人	人
工学部	365 人	317 人	86.8%	1,535 人	1,193 人	77.7%	5 人	3 人
情報理工学部	210 人	173 人	82.3%	840 人	697 人	82.9%	人	人
総合情報学部	人	人	%	人	3 人	%	人	人
生命科学部	235 人	218 人	92.7%	800 人	626 人	78.2%	人	人
生物地球学部	165 人	188 人	113.9%	610 人	663 人	108.6%	人	人
教育学部	110 人	108 人	98.1%	480 人	312 人	65.0%	人	人
経営学部	160 人	183 人	114.3%	640 人	699 人	109.2%	人	人
獣医学部	210 人	210 人	100%	1,090 人	1,196 人	109.7%	人	人
学部合計	1,815 人	1,666 人	91.8%	7,550 人	6,452 人	85.5%	人	人
理工学研究科 修士課程	130 人	117 人	90.0%	260 人	250 人	96.2%	人	人
工学研究科 修士課程	人	人	%	人	1 人	%	人	人
マネジメント 研究科 修士課程	12 人	9 人	75.0%	24 人	29 人	120.8%	人	人
獣医学研究科 修士課程	5 人	3 人	60.0%	10 人	8 人	80.0%	人	人

理工学研究科 博士課程	15 人	8 人	53.3%	45 人	24 人	53.3%	人	人
工学研究科 博士課程	人	人	%	人	人	%	人	人
総合情報研究 科 博士課程	人	人	%	人	3 人	%	人	人
獣医学研究科 博士課程	3 人	4 人	133.3%	9 人	10 人	111.1%	人	人
通信教育部 情報理工学 部	200 人	73 人	36.5%	410 人	211 人	51.4%	10 人	4 人
合計	2,180 人	1,880 人	86.2%	8,308 人	6,988 人	84.1%	15 人	7 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・ 修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含 む。)	その他
理学部	295 人 (100%)	42 人 (14%)	217 人 (74%)	36 人 (12%)
工学部	360 人 (100%)	51 人 (14%)	285 人 (79%)	24 人 (7%)
情報理工学部	162 人 (100%)	23 人 (14%)	132 人 (81%)	7 人 (4%)
総合情報学部	11 人 (100%)	人 (%)	9 人 (82%)	2 人 (18%)
生命科学部	107 人 (100%)	16 人 (15%)	81 人 (76%)	10 人 (9%)
生物地球学部	106 人 (100%)	14 人 (13%)	79 人 (75%)	13 人 (12%)
教育学部	71 人 (100%)	1 人 (1%)	65 人 (92%)	5 人 (7%)
経営学部	143 人 (100%)	6 人 (4%)	125 人 (87%)	12 人 (8%)
獣医学部	201 人 (100%)	4 人 (2%)	160 人 (80%)	37 人 (18%)
理工学研究科 修士課程	1279 人 (100%)	9 人 (7%)	107 人 (84%)	11 人 (9%)
理工学研究科 修士課程 (後 期)	5 人 (100%)	人 (%)	5 人 (100%)	人 (%)
マネジメント 研究科 修士 課程	9 人 (100%)	1 人 (11%)	8 人 (89%)	人 (%)

獣医研究科 修士課程	1 人 (100%)	1 人 (100%)	人 (%)	人 (%)
合計	1598 人 (100%)	168 人 (11%)	1273 人 (80%)	157 人 (10%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な進学先：岡山理科大学大学院、東京大学大学院、京都大学大学院、大阪大学大学院、名古屋大学大学院、筑波大学大学院、東京科学大学大学院、奈良先端科学技術大学院大学、岡山大学大学院、 主な就職先：森永乳業株式会社、東洋水産株式会社、日清食品ホールディングス、J F E スチール株式会社、ダイハツ工業株式会社、オムロン株式会社、日立建機株式会社、大和ハウス工業株式会社、N E C ソリューションイノベーション株式会社、株式会社ニトリ、日本郵便株式会社、ロート製薬株式会社、警視庁、岡山県庁、広島県庁、岡山市役所、株式会社中国銀行、株式会社両備システムズ、岡山県公立学校教員				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
理学部	345 人 (100%)	266 人 (76.8%)	27 人 (7.8%)	52 人 (15.0%)	0 人 (%)
工学部	347 人 (100%)	299 人 (86.1%)	24 人 (6.9%)	24 人 (6.9%)	0 人 (%)
生物地球学部	133 人 (100%)	97 人 (7.2%)	22 人 (16.5%)	14 人 (10.5%)	0 人 (%)
生命科学部	128 人 (100%)	107 人 (83.5%)	1 人 (0.7%)	20 人 (15.6%)	0 人 (%)
情報理工学部	205 人 (100%)	162 人 (79.0%)	21 人 (10.2%)	22 人 (10.7%)	0 人 (%)
教育学部	73 人 (100%)	64 人 (87.6%)	2 人 (2.7%)	7 人 (9.5%)	0 人 (%)
経営学部	161 人 (100%)	137 人 (85.0%)	3 人 (1.8%)	21 人 (13.0%)	0 人 (%)
獣医学部 (6 年制)	158 人 (100%)	119 人 (75.3%)	24 人 (15.1%)	15 人 (9.4%)	0 人 (%)
獣医学部 (4 年制)	70 人 (100%)	65 人 (92.8%)	4 人 (5.7%)	1 人 (1.4%)	0 人 (%)
合計	1620 人 (100%)	1316 人 (81.2%)	128 人 (7.9%)	176 人 (10.8%)	0 人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

学則第 11 条の 3（成績評価基準等の明示等）により、成績評価基準を明示することを定め、授業計画書（シラバス）を作成し、公表している。授業計画書（シラバス）作成にあたっては、教育開発センターが「シラバス作成ガイドライン」を策定し、授業回ごとの計画、達成目標、成績評価（合格基準）、フィードバック、実務経験等について要領を示している。授業担当者に対しては、前年度秋に F D 研修会を通じて、シラバスの充実に取り組んでいる。

授業計画書（シラバス）の作成・公表時期は、11 月に授業担当者に作成予定を周知し、担当者は 12 月中旬からシラバス入力を開始、2 月中旬に作成を完了する。作成された授業計画書（シラバス）は学科長等の第三者チェックを経て、3 月にホームページ上で公開している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学部・学科の理念・目的を実現するために、授与する学位毎に「卒業認定・学位授与の方針」を定めている。卒業認定・学位授与の方針に基づき、「教育課程の編成・実施の方針」を定め、教育課程を体系的に編成し、その内容にふさわしい授業科目を開設している。単位修得の認定、成績評価については、学則並びに履修規程に方針を定めている。「シラバス作成ガイドライン」を定め、授業科目ごとに成績評価基準と単位認定の方針等を記載した「シラバス」を提供している。これら方針に基づき、厳格かつ適正な成績評価及び単位認定、学位授与を行っており、各種方針と規則はホームページや「学則」「履修規程」「学位規程」等の規則で公表している。CAP制度は年間49単位（通信教育部は学期22単位）としている。ただし、前年度の取得単位数が30単位以上、かつ前年度のGPAが3.0以上の者については年間57単位（通信教育部は学期24単位）までの履修を認めている。これらは履修規程に掲載している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
理学部	応用数学科	124 単位	有・無	49 単位
	基礎理学科	124 単位	有・無	49 単位
	物理学科	124 単位	有・無	49 単位
	応用物理学科 物理科学専攻	124 単位	有・無	49 単位
	化学科	124 単位	有・無	49 単位
	生物化学科	124 単位	有・無	49 単位
	動物学科	124 単位	有・無	49 単位
	臨床生命科学科	124 単位	有・無	49 単位
工学部	機械システム工学科	124 単位	有・無	49 単位
	電気電子システム学科	124 単位	有・無	49 単位
	情報工学科	124 単位	有・無	49 単位
	応用化学科	124 単位	有・無	49 単位
	バイオ・応用化学科	124 単位	有・無	49 単位
	知能機械工学科	124 単位	有・無	49 単位
	建築学科	124 単位	有・無	49 単位
	生命医療工学科	124 単位	有・無	49 単位
	工学プロジェクトコース	124 単位	有・無	49 単位
情報理工学部	情報理工学科	124 単位	有・無	49 単位
総合情報学部	情報科学科	124 単位	有・無	49 単位
	社会情報学科	124 単位	有・無	49 単位
生命科学部	生物科学科	124 単位	有・無	49 単位
	医療技術学科	124 単位	有・無	49 単位
生物地球学部	生物地球学科	124 単位	有・無	49 単位
	恐竜学科	124 単位	有・無	49 単位
教育学部	初等教育学科	124 単位	有・無	49 単位
	中等教育学科	124 単位	有・無	49 単位

経営学部	経営学科	124 単位	有・無	49 単位
獣医学部	獣医学科	182 単位	有・無	49 単位
	獣医保健看護学科	124 単位	有・無	49 単位
アクティブラーナーズコース		124 単位	有・無	49 単位
通信教育部 情報理工学部	情報理工学科	124 単位	有・無	学期ごと 22 単位
G P Aの活用状況（任意記載事項）		公表方法：履修規程に定め、学生便覧に掲載。 ホームページ＞情報公開＞「履修規程」 https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/rishukitei/		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：教育職員免許状ならびに博物館学芸員資格取得者数 ホームページ＞情報公開＞教職課程に関する情報 https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページ＞施設・サービス <https://www.ous.ac.jp/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

1) ーア 入学年次

(理学部、工学部、情報理工学部、生命科学部生物科学科、生物地球学部、獣医学部獣医保健看護学科、アクティブラーナーズコース)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)				
理学部	応用数学科	845,000 円	220,000 円	465,000 円	実験実習費 165,000 円 施設設備費 300,000 円				
	基礎理学科								
	物理学科								
	化学科								
	動物学科								
工学部	機械システム工学科								
	電気電子システム学科								
	情報工学科								
	応用化学科								
	建築学科								
情報理工学部	情報理工学科								
生命科学部	生物科学科								
生物地球学部	生物地球学科								
	恐竜学科								
獣医学部	獣医保健看護学科								
アクティブラーナーズコース									
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ヶ月 7～12 ヶ月				

1) ーイ 2年生以降の学費

(理学部、工学部、情報理工学部、総合情報学部、生命科学部生物科学科、生物地球学部、獣医学部獣医保健看護学科、アクティブラーナーズコース)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
理学部	応用数学科	845,000 円	—	625,000 円	実験実習費 165,000 円 施設設備費 460,000 円
	化学科				
	応用物理学科※1				
	基礎理学科				
	物理学科				
	生物化学科※2				
	臨床生命科学科※3 ※4				
	動物学科				
工学部	バイオ・応用化学科※5				
	応用化学科				
	機械システム工学科				

	電気電子システム学科				
	情報工学科				
	知能機械工学科※6				
	生命医療工学科※7				
	建築学科				
	工学プロジェクトコース※8				
情報理工学部	情報理工学科				
総合情報学部	情報科学科※9				
生命科学部	生物科学科				
生物地球学部	生物地球学科				
	恐竜学科				
獣医学部	獣医保健看護学科				
	アクティブラーナーズコース				
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ケ月 7～12 ケ月

※1 理学部応用物理学科は、令和4年度から物理学科に名称変更

※2 理学部生物化学科は、令和4年度から募集停止

※3 臨床生命科学科の学生で病院実習を行う者は、実習費として60,000円を3、4年次に分割して徴収する。

※4 理学部臨床生命科学科は、令和7年度から募集停止

※5 工学部バイオ・応用化学科は、令和4年度から応用化学科に名称変更

※6 工学部知能機械工学科は、令和4年度から募集停止

※7 工学部生命医療工学科は、令和7年度から募集停止

※8 工学部工学プロジェクトコースは、令和4年度から募集停止

※9 総合情報学部情報科学科は、令和4年度から募集停止

2)ーア 入学年次 (教育学部、経営学部)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	初等教育学科	845,000 円	220,000 円	135,000 円	実験実習費 50,000 円 施設設備費 85,000 円
	中等教育学科				
経営学部	経営学科				
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ケ月 7～12 ケ月

2)ーイ 2年生以降の学費 (教育学部、経営学部)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
教育学部	初等教育学科	845,000 円	—	295,000 円	実験実習費 50,000 円 施設設備費 245,000 円
	中等教育学科				
経営学部	経営学科				
学部共通					休学中の在籍料

				60,000 円 120,000 円	3～6 ヶ月 7～12 ヶ月
--	--	--	--	-----------------------	-------------------

3) -ア 入学年次 (獣医学部獣医学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
獣医学部	獣医学科	1,500,000 円	220,000 円	780,000 円	実験実習費 280,000 円 施設設備費 500,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ヶ月 7～12 ヶ月

3) -イ 2年生以降の学費 (獣医学部獣医学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
獣医学部	獣医学科	1,500,000 円	—	936,000 円	実験実習費 436,000 円 施設設備費 500,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ヶ月 7～12 ヶ月

4) -ア 入学年次 (生命科学部医療技術学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生命科学部	医療技術学科	845,000 円	220,000 円	465,000 円	実験実習費 165,000 円 施設設備費 300,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ヶ月 7～12 ヶ月

4) -イ 2年次の学費 (生命科学部医療技術学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
生命科学部	医療技術学科	845,000 円	—	625,000 円	実験実習費 165,000 円 施設設備費 460,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ヶ月 7～12 ヶ月

4) -ウ 3年生以降の学費 (生命科学部医療技術学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
-----	-----	-------------	-----	-----	----------------

生命科学部	医療技術学科	845,000 円	—	675,000 円	実験実習費 215,000 円 施設設備費 460,000 円
学部共通				60,000 円 120,000 円	休学中の在籍料 3～6 ケ月 7～12 ケ月

5) ーア 入学年次 (通信教育部情報理工学部情報理工学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
通信教育部 情報理工学部	情報理工学科	350,000 円	30,000 円	20,000 円	休学中の在籍料として 20,000 円 (年間) 徴収

5) ーイ 2 年次の学費 (通信教育部情報理工学部情報理工学科)

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
通信教育部 情報理工学部	情報理工学科	350,000 円	— 円	20,000 円	休学中の在籍料として 20,000 円 (年間) 徴収

⑨ 大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 学生の修学に係る支援は、アカデミック・アドバイザーデスクを設置し、各学科の教員チューターと協力しながら、学修面や学生生活等に関する相談ができる体制にしている。また、教員はオフィスアワーを設け、授業の質問等について、学生が相談できる時間帯を設けている。さらに春と秋の学期末には修学相談を行い、成績不振者を対象に学科教員が面談により助言及び指導を行っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 進路支援体制は、広く学生の社会的な自立や職業的な自立を促すものとして、「キャリア形成」を念頭に体制づくりをしている。進路支援の中心的役割を果たすキャリア支援担当部署に加えて、別組織である教育推進機構内の基盤教育センターによるキャリア支援科目への取り組み、教職支援センターによる教員免許取得希望学生に対する支援など、学生のキャリア形成・進路選択に対して、組織全体で対応する体制を組み、進路支援を行っている。さらに、9 月には教育・進路懇談会を開催し、学内での進路指導の取り組みの紹介及び指導を行っている。 キャリア支援センター https://career.office.ous.ac.jp/ この他に資格取得を目指す学生の支援を目的として、教員免許状の取得や学芸員資格取得など、各種資格の情報提供を行っている。 教学資格課 https://career.office.ous.ac.jp/kyousyoku/

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）学生への心身の健康等に係る支援体制として、学生支援機構に学生支援センター、健康管理センターを設け、学生支援担当部署が心身の健康管理を支援している。相談内容により、医師、公認心理師、カウンセラー、看護師等が協力して支援を行っている。今治キャンパスにおいても、健康管理室に看護師が常駐し、委嘱した医師と連携を取りながら同様の対応を行っている。また、健康増進を目的として、学生支援部署は体育系、文科系サークルの活動の推進を支援し、健康管理担当部署においては、フィットネスルームの使用促進等を行っている。
学生生活サポート関係 <https://www.ous.ac.jp/facilities/>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：本学は、教育研究活動について、広報誌「理大通信」を作成し、本学の教育研究活動を紹介し、広く学外に配布している。また、デジタル版も Web で公開している。

<https://www.ous.ac.jp/campuslife/info/>

この他に教育と研究の支援関係の情報の公表を次のように行っている。

1) 教育支援関係について

大学ホームページにおいて、公表している。

キャンパスライフ： <https://www.ous.ac.jp/campuslife/>

学生便覧： <https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/handbook/>

学生生活サポート施設 <https://www.ous.ac.jp/facilities/>

履修モデル： <https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/model/>

資格取得支援： <https://career.office.ous.ac.jp/kyousyoku/>

教育の目標と方針（デジタルパンフレット）：

<https://www.ous.ac.jp/outline/disclosure/kyouiku/>

2) 研究支援関係

研究・社会連携部のホームページにおいて、本学の研究シーズの発信や科研費の採択状況等の研究活動の実績、また、受託研究・共同研究の問合せや申込みに係る情報についても、広く公表している。

<https://renkei.office.ous.ac.jp/>

また、研究・社会連携部では、次の刊行物を作成し広く配付している。

刊行物：研究・社会連携白書、OUS 研究者ナビゲーター、フロンティア研究報告、Naturalistae（自然フィールドワークセンター研究報告）、ワイン発酵科学センター報告、LIASION（産学官金連携情報小冊子）

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※全てのセルの行・列の削除不可

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F133310109554
学校名（〇〇大学 等）	岡山理科大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人加計学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		1,725人 （ 932）人	1,687人 （ 893）人	1,775人 （ -）人
内 訳	第Ⅰ区分	415人	393人	
	（うち多子世帯）	（ 96人）	（ 78人）	
	第Ⅱ区分	220人	177人	
	（うち多子世帯）	（ 50人）	（ 38人）	
	第Ⅲ区分	126人	148人	
	（うち多子世帯）	（ 28人）	（ 32人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	206人	224人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	210人	191人	
	区分外（多子世帯）	548人	554人	
家計急変による 支援対象者（年間）				15人 （ -）人
合計（年間）				1,790人 （ 973）人
（備考）				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	38人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当	40人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	—	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	67人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	11人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	—
3月以上の停学	0人
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	27人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	11人	人	人
GPA等が下位4分の1	232人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	232人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。